

再評価調書（再々評価）

事業名	一級河川穂谷川 基幹河川改修事業				
所在地	淀川合流点地先～枚方市杉地先				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	穂谷川流域では、流域内の市街化が著しく、上流部では枚方津田団地等の開発が行われ、洪水による被害を防止し、豊かな生活環境を築くため河川改修を進める。			
	内容	改修延長 L = 約 7.7Km 【整備計画延長 L = 約 3.5km】 道路橋 12 橋 堰 9 基 用地買収約 1,850m <sup>2</sup> 目標流量 210m <sup>3</sup> /S (100 年確率 時間雨量 76.0 ミリ) 治水安全度 (現況) 約 51m <sup>3</sup> /S (時間雨量 24.0 ミリ程度)			
	事業費	全体事業費 計画約 82 億円 投資事業費約 66 億円 内用地費 計画約 10 億円 内用地費約 8 億円 (土地単価約 5.4 万円 / m <sup>2</sup> ) 内工事費 計画約 72 億円 内工事費約 58 億円 (工事単価約 93.5 万円 / m) 再評価時点における事業費 約 82 億円			
	維持管理費	約 10 百万円 / 年			
	上位計画	淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画 大阪府都市基盤整備中期計画 (案)			
	関連事業	第2京阪国道 国道307号改良事業			
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析
		事業採択年度 S55	S55 年	S55 年	用地取得不要区間の工事進捗を図ったため、用地取得は進捗していないが、工事についてはほぼ計画どおり順調に進捗している。
		事業着手年度 S55	S55 年	S55 年	
		完成予定年度 H23	H23 年	H23 年	
進捗状況	用地 - % 工事 - % 整備延長 L = 約 7.7km 河川整備計画延長 L = 約 3.5km	用地 79% 工事 44% 整備済延長 L = 約 3.4km(44%)	用地 79% 工事 84% 整備済延長 L = 約 6.5km(84%) 整備済 (河川整備計画) L = 約 2.3km(66%)		
途中段階の整備効果発現状況	改修済箇所から氾濫防止が図れる。				
事業進捗に関する課題					

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		河川改修事業 ・想定氾濫区域：1,028ha ・浸水戸数：約 14,600 戸	想定氾濫区域：約 675ha ・浸水戸数：約 22,500 世帯 ・浸水区域内人口 ：約 56,100 人	・想定氾濫区域：約 675ha ・浸水戸数：約 23,000 世帯 ・浸水区域内人口 ：約 58,400 人	都市化が著しく、宅地化に伴う地盤高の上昇による想定氾濫区域は減少しているが、想定浸水区域内の世帯数が増加している。
地元等の協力体制		関連事業 ・枚方津田団地 約 24.1ha ・山田池公園整備 約 45.2ha	関連事業 枚方津田団地 (H3～H11 予定) 山田池公園整備 約 45.2ha ふるさとの川整備事業 (H8.4 指定) 関西文化学術研究都市 氷室・津田地区整備	関連事業 枚方津田団地 (H3～H11 完了) 山田池公園整備 約 45.2ha ふるさとの川整備事業 (H8.4 指定) 関西文化学術研究都市 氷室・津田地区整備	
			第2京阪国道 国道307号改良事業	第2京阪国道 国道307号改良事業	河川整備計画策定時に おける地元住民の関心 も高く、概ね協力的である。 第2京阪国道関連事業 区間では用地買収もほ ぼ完了し協力的である。

	計画時の想定		備考	再評価時点での状況	現時点での状況(変更点)		分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	下記、代替指標による		<ul style="list-style-type: none"> <li><math>b/c = 43.20</math></li> <li>年便益 <math>b = 179.5</math> 億円</li> <li>年費用 <math>c = 4.2</math> 億円</li> <li>算出根拠 治水経済調査要綱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>B/C = 50.86</math></li> <li>便益総額 <math>B = 6672.6</math> 億円</li> <li>総費用 <math>C = 131.2</math> 億円</li> <li>費用便益算定の根拠： H12年発行治水経済調査マニュアル(案)</li> <li>便益内容：資産被害抑止効果</li> <li>受益者：周辺住民、農業従事者</li> </ul>		氾濫区域内の都市化・資産の集中が進み、便益が増加したため、費用対効果が高く評価されている。
	その他の指標(代替指標)	事業効果 $C/B = 15.7$ 年平均被害軽減額 $B = 5.0$ 億円 総事業費 $C = 77.6$ 億円	受益内容：資産被害防止効果 受益者：周辺住民、農業従事者 事業効果算定の根拠 「河川局所管国庫補助事業に係わる全体計画の認可について」の運用について				
事業効果の定性的分析	安全・安心	浸水被害の軽減(生命、財産)	<ul style="list-style-type: none"> <li>受益者：周辺住民 農業従事者</li> </ul>	同左	同左	整備計画の策定により、地域住民の意見を反映した改修事業を実施している。	河川改修の実施区間では治水安全度の向上が図られるとともに、都市河川として身近な水辺空間を提供している。さらに、周辺環境に配慮した改修を行うことにより、地域との調和の取れた水辺環境が確保されている。
	活力	(計画時には想定されていない)		交流拠点の形成	交流拠点の形成 親水施設の設置、利用 (緩傾斜護岸の設置等)		
	快適性	(計画時には想定されていない)		景観 山田池公園、北河内自転車道計画を一体としたふるさとの川整備事業による改修計画とする。	景観 緩傾斜護岸により在来種を用いた緑の復元を行い、河畔林を伴う堤防天端を利用した自然巡回路の設置等を行うことにより河川周辺環境との一体感を形成する。		
	その他	(計画時には想定されていない)					
自然環境等への影響と対策	枚方市街地の急激な膨張、沿川の都市化により従来の治水重視の立場から、自然環境の保全と民生の安定を第1義とする治水対策が必要となることから、洪水を安全に流下させるため、概ね全区間でブロック積護岸による改修を実施する。			築堤区間ではブロック護岸による改修が実施されているが、中流部山田池公園や左岸堤防天端を利用した河畔林を伴う自然巡回路と、緩傾斜護岸による在来種による緑の復元など、河川周辺の自然環境と一体感を感じさせる空間づくりを行い河川環境への影響について配慮する。		平成9年河川法の改正を受け、河川環境の保全を念頭に事業が行われている。	
その他特記すべき事項	前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要	<意見具申>  <府の対応方針> 事業継続	今回再評価時点の反映状況				